

Kazuyoshi Akiyama  
Kazuyoshi Akiyama, Conductor

### Profile

#### 秋山 和慶 (指揮)

1941年生まれ。故斎藤秀雄のもとで指揮法を修め、1963年に桐朋学園大学音楽学部を卒業。1964年2月に東京交響楽団を指揮してデビューのち同回の音楽監督・常任指揮者を40年間にわたり務める。その間、トロンボーン副指揮者、アメリカ響音楽監督、バンクーバー響音楽監督（現在桂冠指揮者）、シラキュース響音楽監督を歴任。サンフランシスコ響、クリーヴランド管、ロサンゼルス・フィル、フィラデルフィア管、ニューヨーク・フィル、ボストン響、シカゴ響、ロイヤル・フィル、NDR北ドイツ放送響、ケルン放送響、スイス・ロマンド管、チューリッヒ・トーンハレ管などに客演している。

1991年東京響創立45周年記念ワールドツアーでは全公演を指揮して大成功をおさめ、1994年には同団第400回定期演奏会を記念したシェーンベルクの歌劇「モーゼとアロン」(演奏会形式)を指揮、各紙から絶賛を博し同年音楽界最大の話題となった。また同公演のCDは各レコード誌より国内外で高く評価された。ふたたび1996年東京響創立50周年記念ヨーロッパ公演を指揮して同公演を成功に導き、2001年には同団創立55周年トルコ・イタリア公演を指揮し各地で好評を博した。1997年にシェーンベルク「ヤコブの梯子」、ヤナーチェクの歌劇「利口な女狐の物語」(舞台上演形式)、2000年ラッペンマン「歌劇「マッチ売りの少女」(演奏会形式・日本初演)、ヤナーチェク「歌劇「カーチャ

カヴァンヴァー」(原語による日本初演)、2003年にはジョン・アダマス「エル・ニーニョ」(日本初演)を取り上げるなど常に新たな挑戦を続けている。

これまでに第6回サントリー音楽賞(1975年)、芸術選奨文部大臣賞(1995年)、大阪府民劇場賞(1989年)、大阪芸術賞(1991年)、第36回川崎市文化賞(2007年)、広島市民賞(2008年)をはじめ、東京響とともに毎日芸術賞(1994年)、第8回京都音楽賞大賞(1993年)、モービル音楽賞(1996年)、第29回サントリー音楽賞(1997年)を受賞。2001年11月に紫綬褒章、2011年6月には旭日小綬章を受章。2014年度文化功労者に選出。同年中国文化賞(広島)、徳島県表彰特別功労賞を受賞、2015年渡邊暁雄音楽基金特別賞を受賞。

2014年指揮者生活50年を迎え、2015年2月には回想録「ところで、きょう指揮したのは?」(共著/アルテスパブリッシング刊)を出版。

現在、中部フィルハーモニー交響楽団芸術監督・首席指揮者、東京交響楽団桂冠指揮者、広島交響楽団終身名誉指揮者、九州交響楽団桂冠指揮者を務めるほか、洗足学園音楽大学芸術監督・特別教授、京都市立芸術大学客員教授を務めている。

#### 伊藤 恵 (ピアノ)

Kei Itoh, Piano

幼少より有賀和子氏に師事。桐朋学園高校を卒業後、ザルツブルク・モーツァルトウム音楽大学、ハノーファー音楽大学において名教師ハンス・ライグラー氏に師事。エビナール国際コンクール、J.S.バッハ国際音楽コンクール、ロン＝ティボー国際音楽コンクールと数々のコンクールに入賞。

1983年第32回ミュンヘン国際音楽コンクールピアノ部門で日本人として初の優勝。サヴァリッシュ指揮バイエルン国立管と共演し、ミュンヘンでデビュー。その後もミュンヘン・シンフォニカ、フランクフルト放送響、ベルン響、チェコ・フィルの定期公演などに出演。日本では「若い芽のコンサート」でN響と協演をはじめ、各オーケストラとの共演、リサイタル、室内楽、放送と活躍を続けている。CDの代表作は、シューマン「ピアノ曲全曲録音「シューマンアーナ1～13」」。2007年秋には全集完成記念コンサートを行った。さらに、2008年にリリースを開始した「シュベルト ピアノ作品集1～6」は1作ごとに注目を集め、第6集は2015年度レコード・アカデミー賞、第70回文化庁芸術祭賞優秀賞を受賞。最新盤は「ショパン/24の前奏曲、シューマン/クライスレリアーナ」。また、サイトウ・キネンフェスティバル松本はじめ武生国際音楽祭、軽井沢音楽祭、リゾナーレ音楽祭、東京・春・音楽祭、ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャパンなどに参加。

2008年から2015年4月までの新たな8年シリーズではシュベルトを中心としたリサイタルを開催し好評を博した。1993年日本ショパン協会賞、1994年横浜市文化賞奨励賞受賞。現在、東京藝術大学教授、桐朋学園大学特任教授。

#### 中部フィルハーモニー交響楽団 Chubu Philharmonic Orchestra

中部フィルハーモニー交響楽団は2000年に小牧市交響楽団として発足し、2007年に中部フィルハーモニー交響楽団と改名後、愛知、岐阜、三重の各県で中部圏の音楽文化振興を図るため、個性的なプログラムにより各地で定期的な公演を行い、地域に愛されるプロ交響楽団として活動を行っている。現在の芸術監督・首席指揮者は日本を代表する指揮者の一人秋山和慶。秋山は、2015年には創立15周年記念で大編成のマーラー「復活」を指揮し成功に導いている。2017年度からは2年間4回にわたる「ブラームス・ツィクルス」をスタートし、誠実かつ熱のこもった演奏を行い好評を博した。このうち交響曲第1番と第2番のライブ演奏は「ナクソス・ミュージック・ライブラリー」で世界に配信されている。2018年度からは定期演奏会をNAGOYAシリーズ3回、KOMAKIシリーズ2回の計5回実施し、1人の作曲家にフォーカスしたプログラムが目ざされている。また2018年10月には名古屋フィルハーモニー交響楽団第461回定期演奏会にてマーラー作曲「千人の交響曲」に出演し、名フィルとともに見事な演奏を聴かせた。受賞歴としては、愛知県芸術文化選奨新人賞等を受賞。2017年12月に「多年にわたり地方自治の発展に尽力されその功績は誠に大である」として愛知県知事より感謝状を授与された。

### アクセス ACCESS

三井住友海上しらかわホール 〒460-0008 名古屋市中区栄2-9-15  
TEL.052-222-7110

電車でお越しの場合

●名古屋市営地下鉄東山線・鶴舞線「伏見」駅5番出口から徒歩5分

# CKD

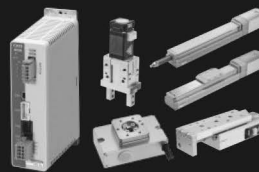
## Automation Technology for the Future



パワフルアームグローバルモデル  
[PAW シリーズ]



三次元はんだ印刷検査機  
[NP9000]



共通コントローラ「ECR」と  
電動アクチュエータ 5 機種



窒素ガス精製ユニット  
[NS シリーズ]



<https://www.ckd.co.jp>

CKD株式会社